

不登校の経験を生かし、希望を作って行こう！



陽春の候 皆様にはお揃いで新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。平素は聖母の小さな学校の教育に格別のご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。本年も色々ご教示いただき、お導きくださいますようお願い申し上げます。

さて、本日1月8日、2024年度3学期を始めました。生徒たちは1学期と2学期をかけて自分自身の真っ暗な絶望的だった日々を確認し、ありのままの自分を認め、それを他者に共有してもらいながら（その時の他者も自己の内面と対話しています）絶望を希望へと変えていきました。まだ小さな灯りですが、希望の灯りをともすことができました。3学期は更に小さな学びであっても、一つ一つを丁寧に学び、視野を広げ、行動力をつけてゆきたいと思います。

一つ一つ、自分が学んだことを自分の中に残していくこと、それは、「良くできたか、できなかったか」ではなく、学びの経験を残していくことです。それには、学びのプロセスも含まれ、そのプロセスの中に生徒一人ひとりの独自のものがあります。そうして希望が作られていくこととなります。生徒たちは、できるかどうかわかりませんが、「高等学校に行きたい」「学校という社会、人との交わりの中に出てゆきたい」と言っています。「今までこの学校でしてきたことを考えると、できるように思う」と言います。今までの経験の中から出た発言と行動です。こうした発言や行動が長い時間をかけてできたことをうれしく思います。何の根拠もなく、「高校に入って環境が変わりさえすれば、集団の中での生活ができる」とかではなく、変容を遂げた自分の中から出る発言と行動だからです。「変容を遂げる」ということは、日々の生活や学びの中で培われるものです。生身の人間が、泣きたくなるような出来事にぶつかったり、なかなか回復しない程の傷を受けたり、また人の優しさに喜んだり、人々との交わりの中での（また、交わりの中に入れるようになるまでの小さなステップも含む）様々な体験を通して、獲得していくものです。そのためには、ありのままの自分に出会い、その時々自分を受け止めること、他者との比較とか、他者の評価を期待するのではなく、どんな自分であっても自分は自分と思えるようになる方向を向いていることが大事です。小さな体験であっても、小さな学びであっても、今、自分がそれをしている事に意味があります。3学期も、こうして人間の底力を付けてゆきたいと思います。明るくなった生徒、もっと学びたいという生徒、生きとる（生きている）気がするという生徒たちに、より豊かな人間力を付けてゆきたいと思います。

3学期も多くの先生方にお世話になります。どうぞよろしくお願ひいたします。

陶芸（高井 晴美 先生）

体育（渡邊 弘 先生）

華道（山中 知昌 先生）

音楽（北浦 弘治 先生）

数学（江宮 文夫 先生）

歴史・校外学習（山下 正 先生）

ウズベキスタン文化（アシルベク先生）

英会話（藤原 キレン 先生）

校外学習（大久保 喜基 先生）

<3学期の主な行事>

- ・「日展」見学（京都市内）
- ・「鯖街道を歩く」第9回
- ・修学旅行「広島平和学習」
- ・高校入試
- ・卒業式、進級式

《余 録》

今年いただいた1枚の年賀状に、「生活の基盤を根こそぎ奪い去る戦争がなくなるよう、その力の一つの砂粒でありたいと思います」と書かれていました。私も同様に、一つの砂粒になりたいと思いました。この考えと想いを他の人と共有し合い（分かち合い）、持ち続けていきたいと思います。そうすれば、この考えと想いは、時を経て倍増していきます。